

7 国土交通分野の気候変動への適応策

地球温暖化に伴う気候変動の影響に対処するため、温室効果ガスの排出の抑制等を行う「緩和」だけではなく、すでに現れている影響や中長期的に避けられない影響に対して「適応」を進めることが求められています。

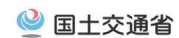
2021年10月、我が国全体の気候変動適応策の強化を図るため、気候変動適応法に基づく「気候変動適応計画」が改定されました。同計画においては、以下の7つの基本戦略の下、関係府省庁が緊密に連携して気候変動適応策を推進することとしています。

- ①あらゆる関連施策に気候変動適応を組み込む
- ②科学的知見に基づく気候変動適応を推進する
- ③我が国の研究機関の英知を集約し、情報基盤を整備する
- ④地域の実情に応じた気候変動適応を推進する
- ⑤国民の理解を深め、事業活動に応じた気候変動適応を促進する
- ⑥開発途上国の適応能力の向上に貢献する
- ⑦関係行政機関の緊密な連携協力体制を確保する

国土の保全をはじめ多様な分野を所管し、安全・安心な国土・地域づくりを担う国土交通省においては、省内環境施策を網羅的に取りまとめた「国土交通省環境行動計画（2025年6月改定）」に国土交通省が今後重点的に取り組むべき7つの重点分野の1つとして「気候変動に適応できる社会の形成」を位置づけ、治水計画の見直しや流域治水の加速化・深化等ハード・ソフトが一体となった気候変動適応策やヒートアイランドや都市の暑熱対策の着実な実施に努めているところです。

●国土交通省環境行動計画（分野別施策の概要）

【重点5】気候変動に適応できる社会の形成



- 気候変動の影響については、自然災害(水害、雪害、土砂災害等)の激甚化・頻発化が深刻化しており、緩和の取組を行っても完全には避けられず、その影響に備えるための**適応策も同時に進めていくことが重要**。
- あらゆる関係者の連携を強めながら、**治水計画の見直しや流域治水の加速化・深化等ハード・ソフトが一体となった気候変動適応策や、ヒートアイランドや都市の暑熱対策を進め、気候変動に適応できる社会を形成していく。**

＜主な施策＞	
<p style="text-align: center;">ハード・ソフトが一体となった気候変動適応策</p> <p>◆治水計画の見直し、流域治水の加速化・深化</p> <p>○ 2035年度までにすべての河川整備計画(国管理河川)で気候変動の影響を考慮した計画へ見直す。</p> <p>○ 海岸保全基本計画における防護目標の設定等により適応策を推進。</p> <p>○ 気候変動による災害外力の増大に対応するため、河川、ダム、砂防、海岸、下水道関係施設の整備等のあらゆる関係者によるハード・ソフト一体となった対策の一層の充実を図り、流域治水の加速化・深化を図る。</p> <p>◆道路啓開の実効性の向上</p> <p>○ 道路啓開計画を法定化し、実効性のある計画に基づいた道路啓開を実施。</p>	<p>◆健全な水循環の意識醸成に向けた普及啓発、教育</p> <p>○ 「水の週間」における中央行事「水を考えるつどい」等を通じ、健全な水循環の意識醸成に向けた普及啓発等を推進。</p> <p style="text-align: center;"><水を考えるつどい> <水の日「ポスター」></p> <p>◆新技術や防災気象情報等を活用した防災・減災対策</p> <p>○ ドローンやAI等の新技術の活用を進め、国民目線に立ったわかりやすい情報発信等を推進。</p> <p>○ 防災気象情報等の高度化や、災害発生の危険度を示す危険度分布(キキクル)等によって住民の避難行動を促進。</p>
<p>ハード対策 × ソフト対策</p>	<p style="text-align: center;">ヒートアイランド・暑熱対策</p> <p>◆生活環境の向上に資するヒートアイランド対策</p> <p>○ 遮熱性舗装等の整備、まちなかの緑化空間の創出等、生活環境の向上に資するヒートアイランド対策を促進。</p> <p>◆熱中症警戒アラートによる熱中症予防行動の促進</p> <p>○ 環境省と共同で「熱中症警戒アラート」を発表し、暑さへの「気づき」を呼びかけ。</p> <p>◆新技術の創出・普及促進</p> <p>○ ヒートアイランド対策に資する新技術の開発・普及。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">(例)第6回エコフレアワード 国土交通大臣賞「SPACECOOL」</p>

出典：国土交通省